

6-12

演題	目からウロコ！！！！
副題	～自立した生活のためにお金について考えよう～

金銭管理
お金の相談

法人名	社会福祉法人 中心会
施設名	えびな南高齢者施設

発表者名 (職種)	八巻 健 相談員
共同発表者	島地 亜実
共同発表者	
共同発表者	
共同発表者	

都道府県	神奈川県
住所	神奈川県海老名市杉久保南 3-31-6
TEL	046-238-7681
FAX	046-238-7682
メールアドレス	minami-jimu@chusinkai.jp
URL	

今回の発表施設 またはサービスの 概要	・特別養護老人ホーム（入所 50 名）、養護老人ホーム（入所 50 名） 神奈川県海老名市の南部にあります。誰もが自分の存在に誇りを持ち、 「あなたがいてくれて良かったと思える街づくり」を目指して活動しています。
---------------------------	--

研究の目的、PR ポイント

養護老人ホームの入所理由の約半数は「生活困窮者」が占めています。
今回は「経済的理由で困窮」に着目し、
多様な背景の中で生活をされてきた方々が、なぜ困窮に至ったのか。
入所後に経済的な支援を行い、見えてきたものは何か。
施設職員はどこまで食い込めるのか。
自立支援に向けた取り組みを考えます。

取り組んだ課題

多くの方が「お金のやりくりができず」に今に至っています。経済的に生活を立て直す必要があってもそれに気づくことが出来ない、気づけたとしても解決方法が分からない方が多くいることに気づきました。一人ひとりのここに至るまでの背景・経緯に向き合いながら解決の糸口を探します。

具体的な取り組み

まずは本人が管理出来ていなかった現状を把握することから始めました。収支のバランスをみたり、責務があればその対応について本人を含め関係者（※）と改善に向けて取り組みました。
（※）家族、後見人、措置機関ケースワーカー、養護老人ホーム支援員等

活動の成果と評価

お金の使い方を本人と一緒に考えることで“今あるお金を使う”“未来のためにお金を貯める”を実現させています。
本人に不利益が生じないように、債務については専門家につなぎ解決に向かっています。

今後の課題

人によって価値観や理解、納得の度合いが異なるため、必要な支払い等がある中で本人が大切にす部分と寄り添っていく関りが引き続き必要です。
過去の負債については弁護士等の専門家に対応を依

頼しなければ解決しない事例があることがわかりました。対応が遅くなると負債が大きくなる一方であるため、迅速な情報収集と関連機関への情報提供が必要です。専門家ともつながりながら共同して利用者に対して取り組んでいく必要があると考えます。